

12年度第3四半期(累計) 決算説明資料

2013年2月13日

沖電気工業株式会社

※億円単位の数値の表示方法について:

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

※本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

本日のご説明内容

1. 第3四半期(累計)期間 決算について
 - 1-1) グループ概況
 - 1-2) セグメント情報
 - 1-3) 営業利益の変動要因
 - 1-4) P/Lの概要
 - 1-5) B/Sの概要
 - 1-6) キャッシュフローの概要

2. 通期業績予想について
 - 2-1) サマリ

※以下記載の前年同期との比較はすべて平成24年9月14日付訂正後の四半期財務諸表等に基づくものです

グループ概況

■第3四半期累計の業績は、売上高がすべてのセグメントで増収。
 営業利益は、情報通信、EMS、その他のセグメントが増益。
 全体では、プリンタセグメントの悪化により減益

【対前年同期比較】

- 売上高は、157億円の増収(為替影響▲16億円)
- 営業利益は、37億円の悪化(為替影響▲11億円)

EMS: Electronics Manufacturing Service

(単位:億円)	12年度		前年同期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報通信	1,841	93	1,740	89
プリンタ	815	△90	778	△43
EMS	232	9	229	8
その他	149	26	133	20
消去・本社費	—	△45	—	△44
合計	3,037	△7	2,880	30

セグメント情報 【情報通信】

■ 為替による影響

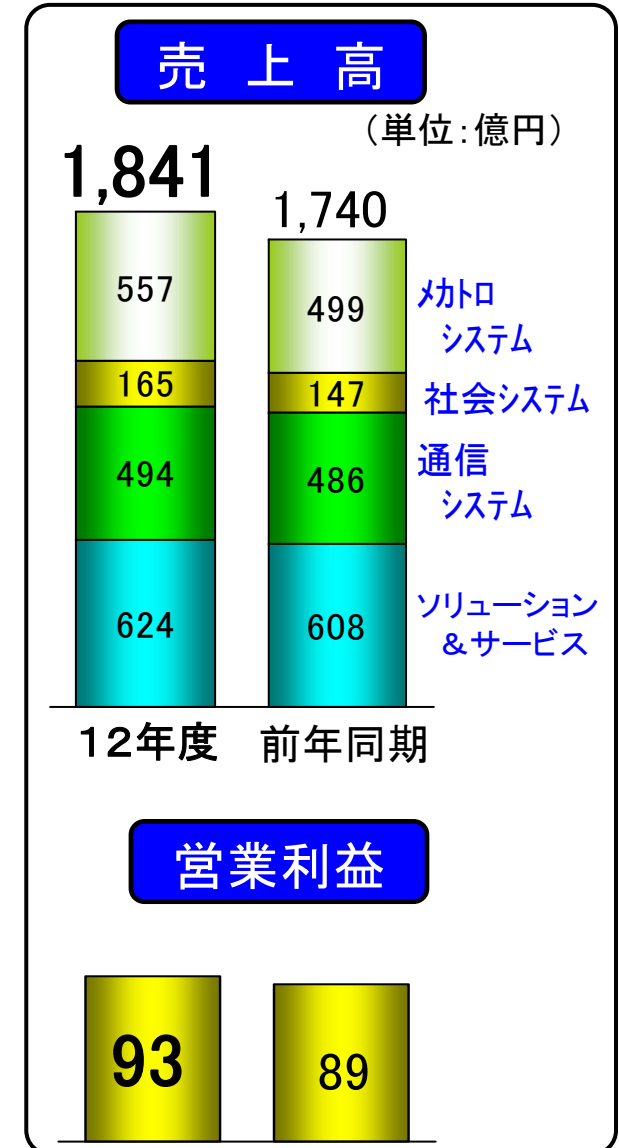
- 売上高8億円増収、営業利益2億円増益

■ 売上高: 為替除き93億円増収

- ソリューション&サービス:
官公庁向け案件などが堅調
- 通信システム:
コアNWなどが増加。企業NWや保守・工事も堅調
- 社会システム:
防災案件および一部官公庁向けの大型リプレース
などが増加
- メカトロシステム:
中国向けATMは引き続き好調

■ 営業利益: 為替除き2億円増益

物量増に伴い限界利益は増加。メカトロシステムや通信システムを中心に積極的なR&D投資を実施



セグメント情報【プリンタ】

■為替による影響

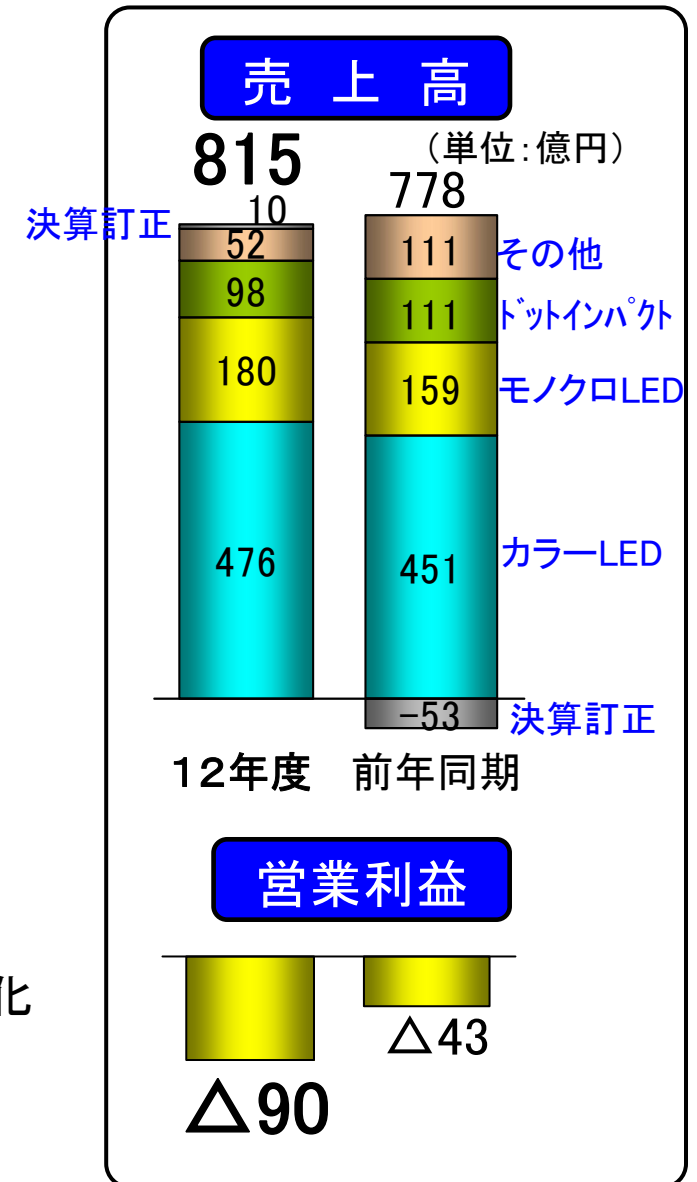
- 売上高24億円減収、営業利益13億円減益

■売上高: 為替除き61億円増収

- カラーLEDプリンタおよびモノLEDプリンタ:
 - ・下期に入り市場環境は一段と厳しくなるものの、商品ラインアップ拡充などにより、販売台数は増加
 - ・主力のA4カラーおよびモノクロ新商品販売は堅調
- ドットインパクト:
 - 販売台数は増加するものの、価格下落により減収

■営業利益: 為替除き34億円悪化

販売台数は増加するものの、価格下落、販売投資増、輸送費増に加え、スペイン市況悪化影響などにより悪化



セグメント情報【EMS】・【その他】

■ 売上高

➤ EMS:

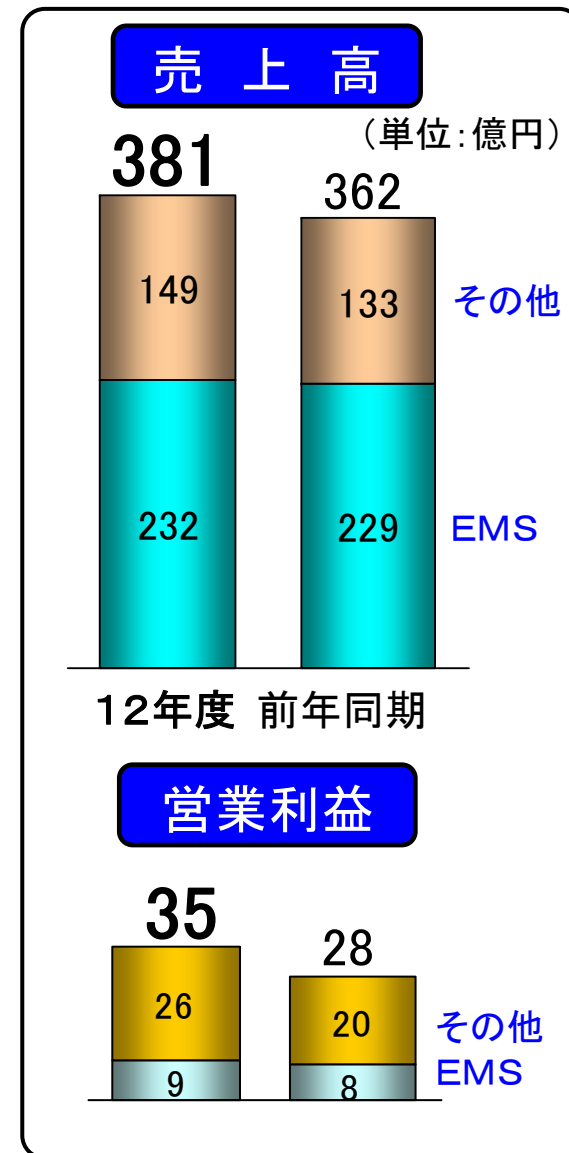
半導体装置関連の需要は減少。
通信機器市場や医療機器市場での新規案件獲得に加え、OKI田中サーキットの新規連結などにより増収

➤ その他:

アミューズメント市場向けの部品関連が堅調

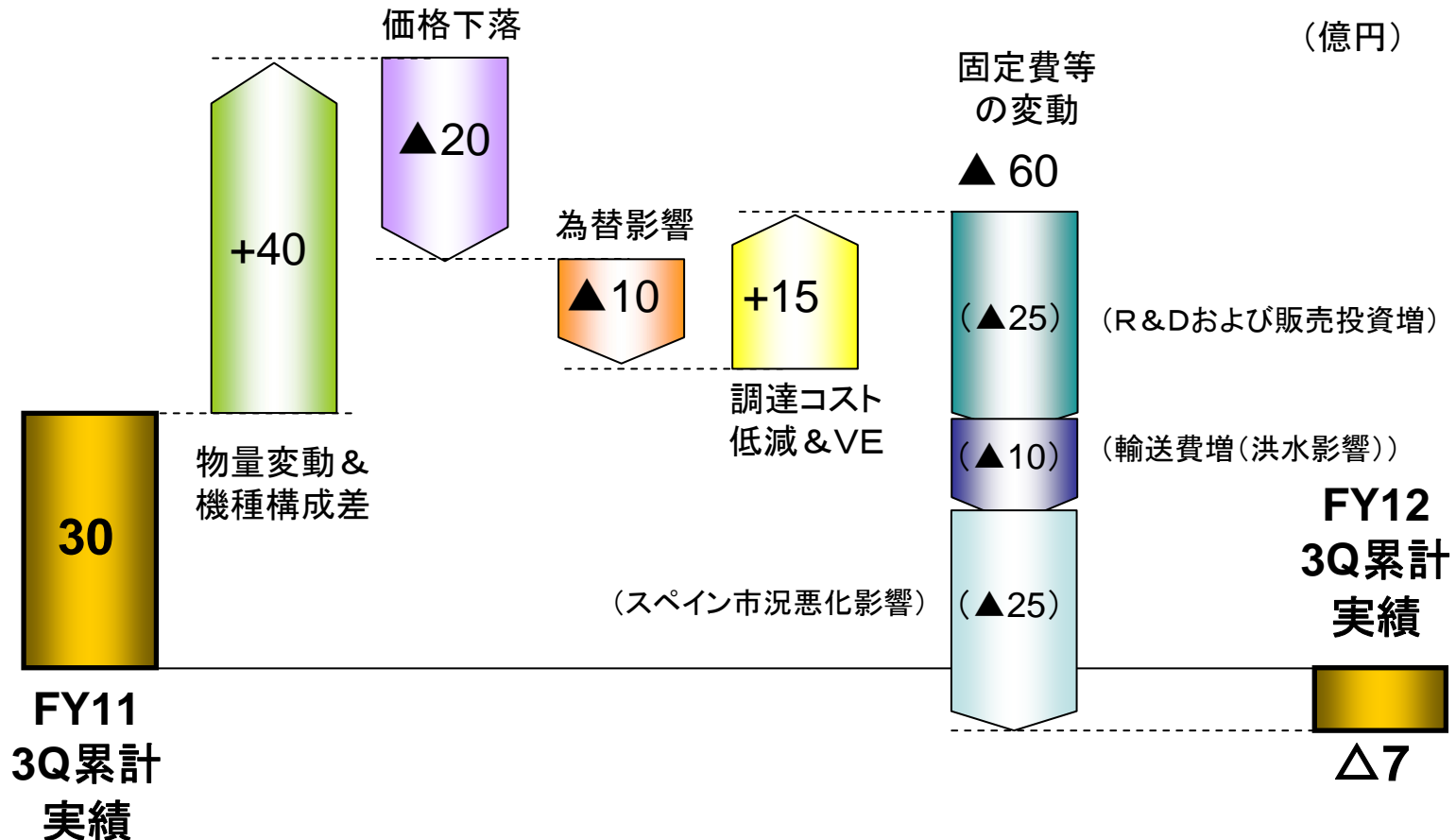
■ 営業利益

物量増に伴う限界利益の増加などにより増益



営業利益の変動要因

■ 物量増や変動原価の低減などの増益効果はあるものの、R&Dおよび販売投資増に加え、価格下落、為替影響、スペイン市況悪化影響などにより、前年対比37億円悪化



P/Lの概要

(単位:億円)	12年度	前年同期
売上高	3,037	2,880
売上原価	2,264	2,175
販管費	779	675
営業利益	△7	30
営業外収支	31	△26
経常利益	24	4
特別損益	△4	△52
税引前利益	19	△48
当期純利益	△13	△106

【対前年比較】

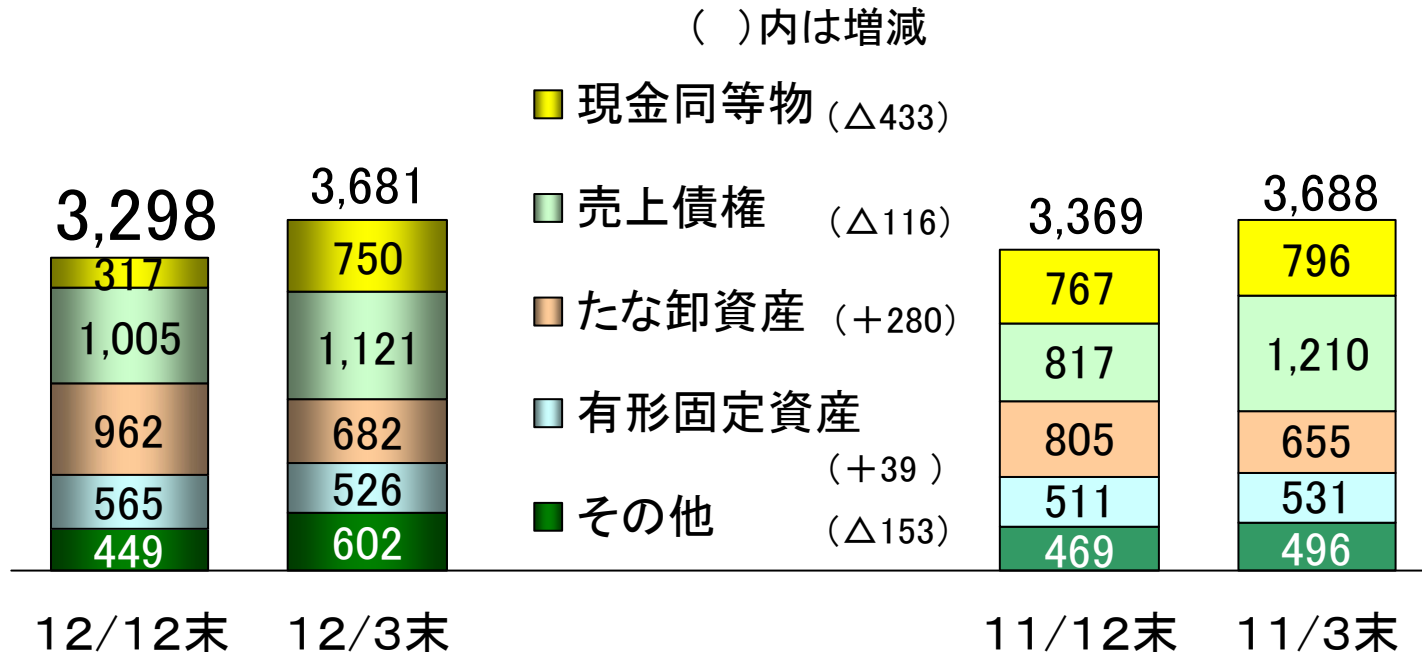
- 販管費は、情報通信セグメントを中心とした積極的なR&D投資やスペイン貸倒引当影響などにより増加
- 営業外収支は、為替差益(△9→48)や支払い利息の減少などにより良化
- 特別損益は、投資有価証券評価損の減少などにより良化。
前年度にはタイ洪水災害損失あり
 - ・投資有価証券評価損(△13→△2)
 - ・タイ洪水災害損失(△27→0)

参考	期末日レート		平均為替レート	
	12/12末	12/3末	3Q累実績	前年同期
USD	86.6	82.1	80.0	79.0
EUR	114.7	109.7	102.2	110.6

B/Sの概要【資産の部】

- 現金同等物や売上債権の減少などにより、総資産は383億円減少
- 現金同等物は、好調な中国向けATMや社会システムなどの売上拡大に伴う運転資金の増加に加え、借入金の返済やスペインのファクタリング解消などにより、433億円減少

(単位:億円)

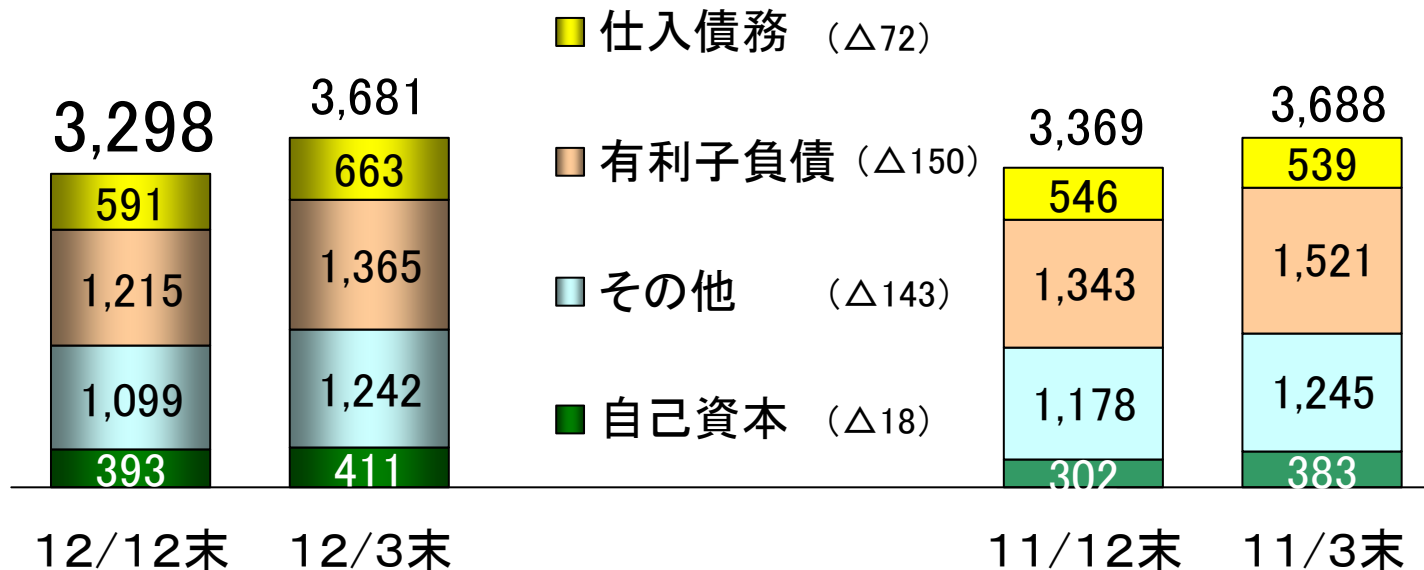


B/Sの概要【負債・純資産の部】

- 自己資本は当期純損失などにより18億円減少。
自己資本比率は11.9%
- NET有利子負債は283億円増加し898億円。NET D/Eレシオは2.3倍

(単位:億円)

()内は増減



キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフローは、運転資金の増加およびスペインのファクタリング解消などにより181億円の支出

(単位:億円)	12年度	前年同期
I 営業キャッシュフロー	△181	174
税金等調整前当期純利益	19	△48
減価償却費	93	95
運転資金の増減	△196	198
その他	△97	△71
II 投資キャッシュフロー	△92	△27
設備投資支払額	△78	△58
その他投資活動	△14	31
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△273	147
III 財務キャッシュフロー	△182	△180
キャッシュフロー計(I + II + III)	△455	△33
フリー・キャッシュフロー年間見込み	△190	134

フリー・キャッシュフローおよびキャッシュフロー計については、各項目の億円単位での合計値で表示しています

本日のご説明内容

1. 第3四半期(累計)期間 決算について
 - 1-1) グループ概況
 - 1-2) セグメント情報
 - 1-3) 営業利益の変動要因
 - 1-4) P/Lの概要
 - 1-5) B/Sの概要
 - 1-6) キャッシュフローの概要

2. 通期業績予想について
 - 2-1) サマリ

通期業績予想サマリ

■ 堅調に推移している情報通信セグメントの業況や4Q為替レート見直しなどにより、売上高、経常利益および当期純利益については上方修正。但し、営業利益についてはプリンタセグメントの現状を踏まえ下方修正

(単位:億円)	通期業績予想			前年同期
	今回	前回公表	修正額	
売上高	4,520	4,450	+70	4,235
情報通信	2,895	2,800	+95	2,672
プリンタ	1,110	1,130	▲20	1,074
E M S	330	350	▲20	313
その他	185	170	+15	176
営業利益	100	140	▲40	120
情報通信	215	210	+5	187
プリンタ	△95	△50	▲45	△43
E M S	15	15	—	15
その他	30	30	—	25
消去・本社費	△65	△65	—	△64
経常利益	115	110	+5	91
当期純利益	80	65	+15	16

(参考)	4Q想定為替レート
USD	76.0→85.0
EUR	100.0→115.0



Open up your dreams